

【いざというときの安否確認方法】

地震などの大きな災害が発生すると、被災地への電話が殺到し、回線が大変混雑するため、つながりにくくなります。こうした通信の混雑の影響を避けながら、家族や知人との間で安否の確認や避難場所の連絡等をスムーズに行うため、連絡手段を確認し、複数の方法を使えるようにしておきましょう。

災害用伝言サービス

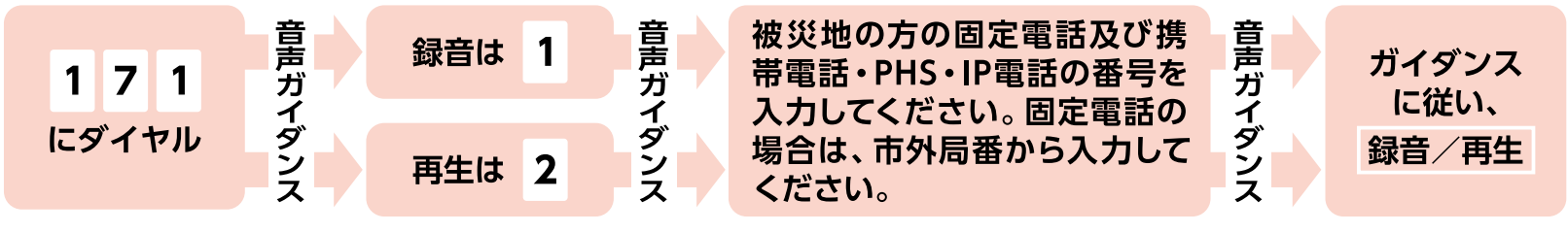
「災害用伝言サービス」では、固定電話・携帯電話・インターネットで伝言を残すことができます。いざという時、戸惑う事なくすぐに使えるよう、災害用伝言サービスの体験利用日(右図参照)を活用して、家族などといっしょに使い方を確認しておきましょう。

【体験利用日】

- 毎月1日・15日
- 正月三が日(1月1日～1月3日)
- 防災週間(8月30日～9月5日)
- 防災とボランティア週間(1月15日～1月21日)

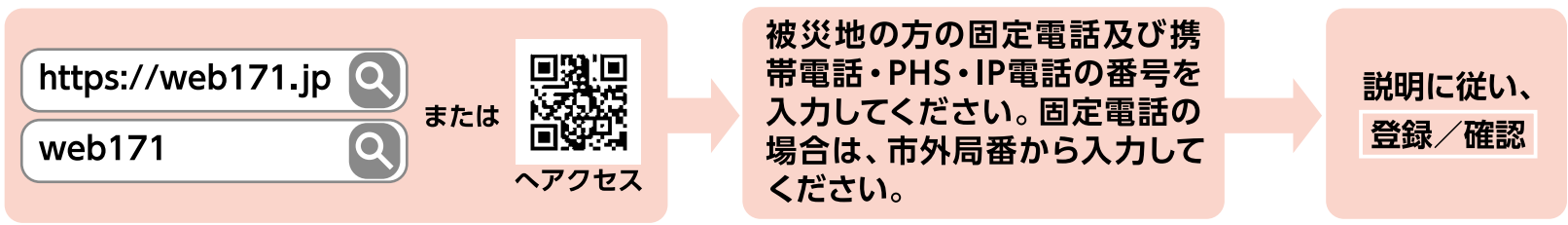
災害用伝言ダイヤル(171)

被災地への電話が繋がりにくい状況になった場合、安否などの情報を録音・確認できる声の伝言板です。



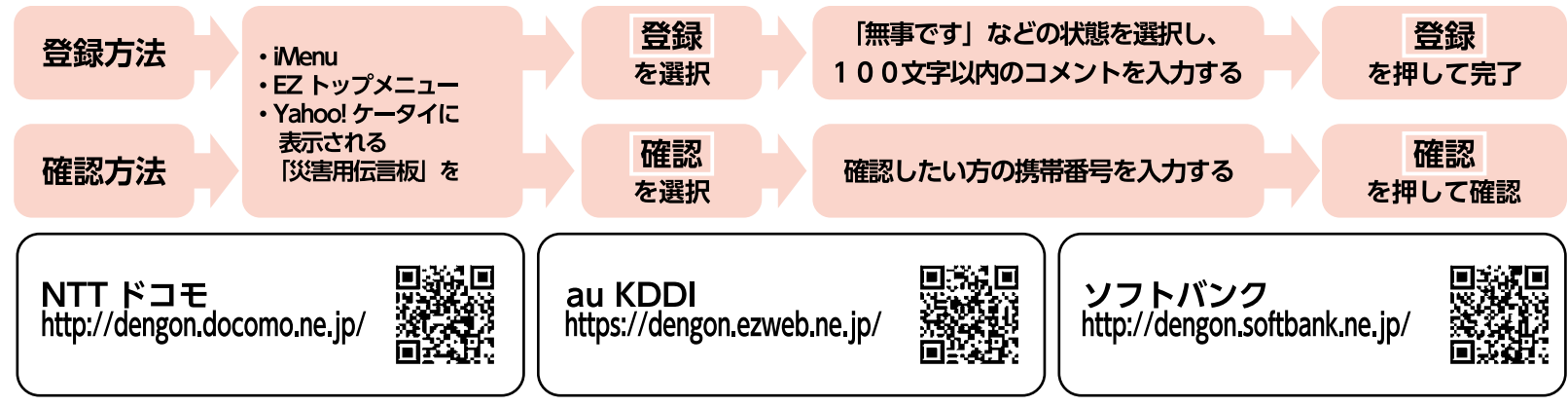
災害用伝言板(web171)

インターネットを利用して、被災地にいる方の安否などの情報を登録・確認できる文字の伝言板です。



災害用伝言板

災害時、各種携帯会社サイトに開設された災害用伝言板で、被災者の安否などの情報を登録・確認できます。



災害用音声お届けサービス

専用アプリケーションをインストールしたスマートフォン等対応端末から、音声メッセージを送信することができるサービスです。

以下のアプリケーションのインストールが必要です
 NTTドコモ:「災害用キット」、au KDDI:「au 災害対策」、
 ソフトバンク:「災害用伝言板」、ワイモバイル:「災害用伝言板」

三角連絡法

被災地にいる方同士が連絡をとろうとした場合、回線の混雑などで連絡が取りにくくなることがあります。そうしたとき、離れた地域に住む知り合いに電話をかけ、その方に伝言を預かってもらうという方法が「三角連絡法」です。誰に電話をかけるか、事前に家族間で決めておきましょう。

